

超密植と灌水同時施肥による高収益型ブドウ生産システムの構築

1 中核機関・研究総括者
岡山大学 久保田 尚浩

2 研究期間
2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的

今後も岡山県のブドウ産地を維持・発展させるには、新規就農を促進することが最重要課題であるが、従来の栽培法では初期投資の回収が遅いこと、高品質な果実を安定生産するには熟練技術が必要であることがネックとなっている。そこで、斉一な自家生産苗を野菜感覚で植え、灌水同時施肥により、定植の翌年から高品質な果実を多収できる独自の技術を確立し、初心者でも取り組みが容易で、早期から高収益が得られる新しいブドウ生産システムを構築する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 効率的育苗技術の開発（岡山県農業総合センター、（有）アグリシステム・モリ）
剪定枝の挿し木育苗法を検討し、定植可能な苗の歩留まりが 90% 以上となる技術を開発する。
- ② 花穂着生安定化技術の開発（岡山大学、岡山県農業総合センター）
花穂数が減少する原因を明らかにするとともに、その対策法を検討し、安定して 1 枝に 1 花穂以上着生する技術を確立する。
- ③ 新規生産システムの実証（岡山県農業総合センター、岡山大学）
定植した翌年から高品質なブドウが安定して多収可能な本栽培システムを実証する。

5 目標とする成果

初心者でも高品質なブドウを定植翌年から安定して多収できる高収益型生産システムを構築する。その結果、ブドウ産地への新たな担い手の参入が促進され、また全国のブドウ産地の活性化に寄与できる。

超密植と灌水同時施肥による高収益型ブドウ生産システムの構築

★新ブドウ生産システムとは？

超密植(1000本以上/10a)と灌水同時施肥で2年目から成園以上の収量



2月挿し木



4月定植



9月樹形完成



翌年9月収穫

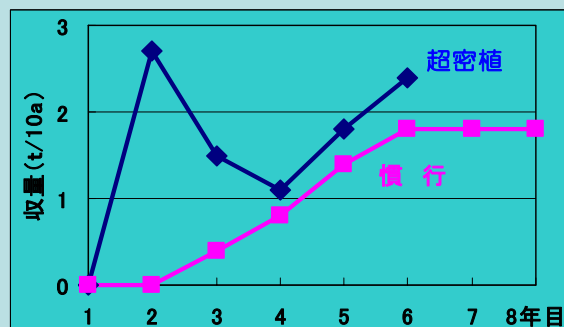
★求められる特徴：・初心者でも・早期から・高品質果実が・多収できる

課題は？

★大量な苗の安定生産が必須



★定植3年目の花穂不足による収量低下



研究内容

効率的育苗技術の開発

- ・発根・発芽の促進技術
- ・作業の効率化技術

★翌年から確実に果実が収穫できる苗の大量生産

花穂着生安定化技術の開発

- ・好適な栽植密度の解明
- ・新梢管理技術

★毎年安定した花穂数の確保による収量安定

新規生産システムの実証

- ・果実品質、収量の評価
- ・経営評価、マニュアル化

★毎年高品質果実が生産できる技術の提示

新しい高収益型ブドウ生産システムの構築

予想される成果

- ・早期成園化＋多収, 新規参入の促進
- ・果実品質安定生産技術の開発
- ・ブドウ産地の活性化→他県にも波及